

第131回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成28年5月

日時: 2016年5月27日(金) 18:00-19:30

場所: 神奈川大学 1号館 308室

◆ 主催: 防災塾・だるま

司会: 田中喜世美

記録: 紅林敏行

◆ 談義の会参加者: 会員30名(含む講師)

一般11名(含む講師)

計41名(敬称略)



荻本塾長(講師)

2016/2/21に実施したワークショップでは、『「(仮称)防災・危機管理連絡会」の必要性』に関する意見交換・討議が十分ではなかった。本日は皆さんから意見・要望を聞きたい。



講義の風景



高梨さん(講師)

話題: 『地域防災対策支援DB』～3年の報告と今後の展望～

講師: 荻本孝久氏(文科省PJ運営委員会委員長、神奈川大学工学部教授: 防災塾・だるま塾長)

高梨成子氏(文科省PJ研究代表者、㈱防災&情報研究所代表)

2016/2/21(日)神奈川大学にて実施したワークショップ「新たな展開を迎える神奈川県自主防災・市民防災活動」で報告した『文部科学省地域防災対策支援研究プロジェクト【神奈川県に係る防災研究データベースの活用を起爆剤とした官学民連携による地域防災活動活性化研究】』の3年間(平成25～27年度)の活動報告を説明。防災・減災に関する情報交換・交流の場となる連絡会『(仮称)かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク』について出席者から意見・要望を聞いた。

神奈川県の災害/防災/減災研究成果収集とデータベース構築(平成25～27年度の成果)
● 県市町村等へのアンケート調査、個別ヒアリング調査
● 既論文・文献、表彰事例、研究会等資料の収集
● データベース構築
⇒ 個人電話番号等を削除し提供可能な状態
《主なデータベース項目》
★ 神奈川県及び県下市町村の講演・研修等における講師一覧
★ 大学・研究機関研究者の地域防災支援活動者名簿(専門分野等を含む)
★ 自主防災組織・ボランティア団体等の活動事例集(活動実施状況、活用している技能、連携している研究者等)

『(仮称)かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク』
● 設立の必要性は?
● 対象団体は? ⇒ 自主防災組織・ボランティア団体は67
● どのような活動を?
・ メリットリスト
・ 事務局から、各地の防災団体等の案内
・ 防災講演会(研究会)、情報交換会等
・ 講師等派遣・活動助言(講師等登録/評価)
・ 表彰制度(自主防災組織・ボランティア団体等を対象)
● 事務局/世話人は?
⇒ 神奈川大学・防災センターで運営する方向
● 会費は?

《主な意見》

- ・ 「防災塾・だるま」の活動(談義の会等)を活用することが良い。
- ・ メリットリストによる情報共有の場は必要。参加団体の裾野を広げ、各団体の底力を蓄えていくことが重要。
- ・ この様なデータベースを集めて何に使うのか不明確、個々の団体の困っている事の明確化が必須。
- ・ 活発に活動している方と会って、話して、問題を共有し、対策を考える「顔の見える仕組み」が必要。
- ・ 若い世代につなげるべく防災担当者の育成が急務。そのため専門家育成の大学を立ち上げたらどうか?

《まとめ》

- ・ 地域防災活動の「情報交換・交流」の場は必要と認識。実現化に向けて各種準備を進めていく。
- ・ メリットリストに基づいて情報共有を始める(情報共有が不要な団体は対象から除外)。

● 次回(第132回)案内

- ・ 日時: 2016年6月24日(金) 18時～19時30分
- ・ 会場: 神奈川大学 24号館 310号室
- ・ 話題: 青葉区民会議はこう考える ～市民の視点とデータベースで防災・減災の課題をとらえる～
- ・ 講師: 小池由美氏(青葉区民会議・副代表、青葉区災害ボランティア連絡会副代表)